

生存科学研究ニュース

VOL. 13. NO. 4

1998.9.10 発行

発行 財団法人 生存科学研究所

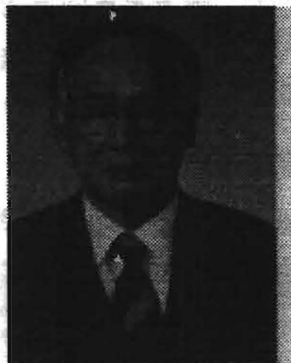
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1

電話 03-3563-3518

副理事長に就任して

福井 光壽

生存科学研究所の新理事長に就任されることに決定していた、土屋健三郎先生が急逝されました。先生にはバイオサナ



トロロジー学会で教えを受け、先生のご遺志もあり、このたび、副理事長に就任いたしました。もとより浅学非才の身ですが、土屋先生のご遺志にも添えるよう努力いたしたいと存じます。

以前より生存科学研究所の理事に就任しておりましたが、東京都医師会長という激職のため、何等お役に立てずにおりました。8年間つとめました会長も平成9年退任いたしました。

故武見太郎先生の警咳に接し、また特別に可愛がっていただき、先生のご生前中、研究会の一員にも加えていただき多くのことを学びました。先生の「生存の理法」の理念が今日ほど求められている秋はないと思います。

副理事長に就任してみて、改めて気付いた

ことは、第一に、研究所において先生の理念が活かされていないのではないかとということでした。急速に変化してゆく時代の流れに、対応した運営が必要と感じています。

諸先人が営々と努力されてきたことには限りない敬意を表しますが、思いきった改革が必要とされているのではないかと考えています。

第二に、公益信託武見記念生存科学研究基金の問題があります。生存科学研究所とは表裏一体の関係にあるべきと思います。武見先生の理念を共有する組織であり、互いに連携してゆくことを望むものです。

生存科学研究所は、その他多くの問題を抱えていますが、沈滞し、下降してゆく傾向を早急に改め、英断をもって改革し、人類の生存の秩序と理法という哲学を問う武見先生の理念を、勇気をもって実現・実行すべきでありましょう。

6月22日(月)に、平成10年度第1回研究会が次のテーマで行われた。難病ケアシステム、集中治療と臓器移植のエコノミー

これらのテーマは、報告者がそれぞれの学会で報告した内容であり、その要旨と問題点が討論の素材として提供された。

(1) 難病ケアシステムの社会経済的考察

これは、1995年11月に福井医科大学主催の「第3回国際生命倫理福井セミナー—神経難病、ヒトゲノム研究と社会—」において、与えられた課題である。その内容は、難病対策の歴史と、現在行われている事業のフローチャート、難病対策関係予算の推移と特定疾患医療受給者交付件数の推移との対比、福井県における特定疾患対策の実際が述べられた。

(2) 集中治療と医療経済

1994年2月に名古屋国際会議場で行われた日本集中治療医学会第21回での報告にもとづく。本学会で、経済成長と救急医療需要の増加との関係が各種統計指標によって検証さ

れ、需要増に対して集中治療管理施設の供給が適切に対応しているかどうか、集中治療の経済としてどういう側面があるか、集中治療の社会的評価と診療報酬、そのことに関連してICUの原価計算の事例が示された。

(3) 脳死・臓器移植のエコノミー

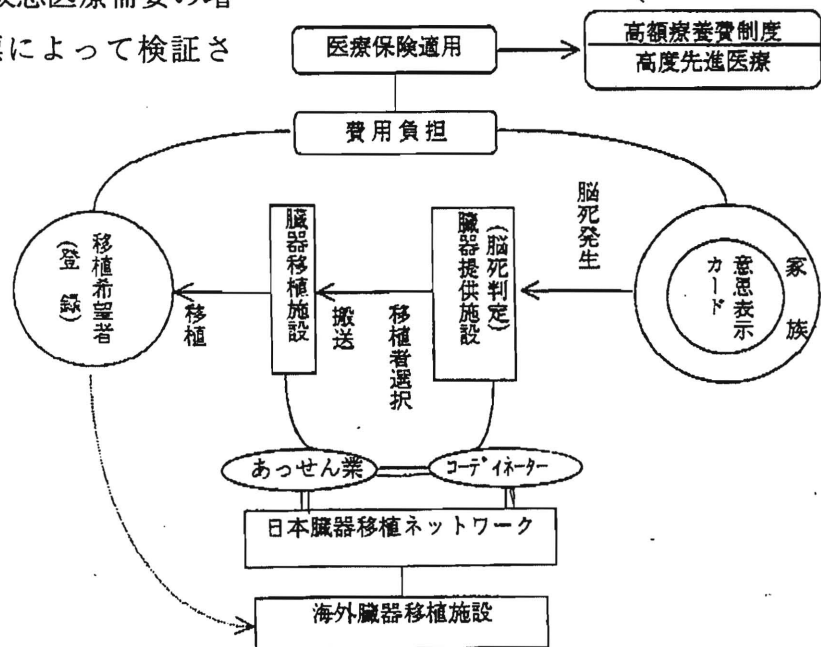
平成10年3月、日本大学会館大講堂で行われた「脳死状態における医生物学、脳死の臨床診断」セミナーにおいて「パネル討論：脳死問題の将来」が取り上げられ、報告者はそのなかで、「脳死、臓器移植問題への経済的接近」について報告した。その内容は、

- a. 臓器移植関連図
- b. 移植医療の経済的側面
- c. 臓器移植医療費の今後の動向

の3項目であり、それぞれについての分析と当日の質疑応答が披露された。

以上の報告には、それぞれ関連の統計表やグラフが示されたが、そのうち「脳死、臓器移植問題への経済的接近」のテーマについては、次図にもとづいて説明がなされた。

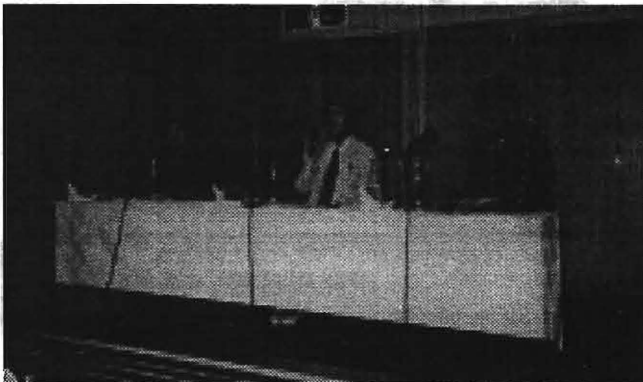
臓器移植費用関連図



生存科学講座

去る8月8日(土)午後1時より、平成10年度生存科学講座第1回講演会が「教育=教えること・教わること」と題し、アルカディア市ヶ谷(私学会館)にて開催されました。講師に「賢治の学校」主宰者鳥山敏子氏と衆議院議員の保坂展人氏をお願いしました。

はじめに、鳥山氏が、従来の没個性教育システムの弊害を、ご自身の体験をもとに話され、その打開策を提言されました。ついで、保坂氏は「子どもサポートシステム」の確立をライフワークとし、登校拒否児のネットワークづくりに取り組んでいる体験から、教育をどう変えていくか、国外の事例もまじえて具体的に話されました。



ついで、生存科学研究所会員の丸井英二氏の司会のもと、お二人の討論に入りました。小学校、中学校時代のご自身の体験談も交えて、今、子供達が求めていること、感じていること、大人達が考えなくてはいけないこと、などについて時間が足りなくなるほどの熱のこもった討論が行われました。

聴講者に改めて、教育の見直しと子どもの幸せを考えさせる充実した講演会でした。

これからも、「看護」(9月)「家族」(11月)「福祉」(2月)をテーマに講演会を企画していますので、生存科学研究所会員の皆様も奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

予 告

今回は「看ること・看られること」をテーマに下記のとおり開催致します。多数の会員の皆様のご来場をお待ちしています。

記

日 時： 9月26日(土)1時～4時

会 場： 東海大学校友会館

霞が関ビル 33階

(次ページ案内図参照)

聴講料：会員 無料 一般 2000円

講師プロフィール：

* 川崎 富作

小児科医

川崎病の発見者

川崎病に悩む全国の

患者の方々の相談に

のっている



* 田中 とも江

上川病院看護部長

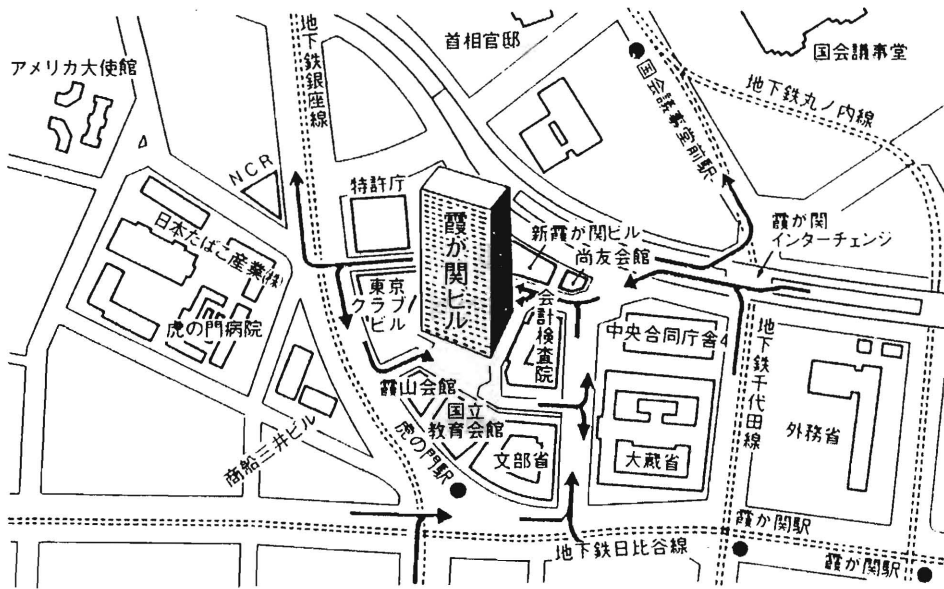
老人病院の看護部長

として患者の期待する看護を實踐している

その医療現場での様子を話していただく

お手数ですが、同封のはがきに出欠をご記入の上、9月22日までにご返送ください。

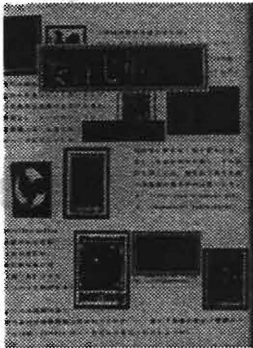
〈案内図〉



- 交通の御案内
- 地下鉄銀座線虎の門駅より徒歩5分です
 - 地下鉄日比谷線・千代田線霞が関駅より徒歩7分です
 - 地下鉄丸の内線霞が関駅より徒歩8分です
 - 霞が関ビル駐車場完備

霞が関ビル33階 東海大学校友会館 TEL 3581-0121

会員寄贈図書



妄言七年

-1991~1997三枝通信-

三枝靖夫 著

驢馬出版 発行

70才になったのを機に仲間に送り始めた随時随意で著者が読者を選ぶ気ままな随想をまとめた随筆集。生来、社会の動きに追随するを好まず、九十九人が前方を視るならば、独り自分だけは後方を観ていたいという陳ねこびた老骨の言い分で、妄言の連続である。現在の日本人に対する憂いや叱咤を意識して綴ったが、自己満足あるいは自慰にすぎないかも知れない。(あとがきより)

研究所日報

- 7月16日(木) 第2回編集小委員会
- 8月7日(金) 第2期第1回受託事業打ち合わせ会
- 8月8日(土) 第1回生存科学講座
- 9月12日(土) 旧バイオサトロン学会臨時総会